



平成30年度12月の園だより



みみよう保育園

【自己主張は自立の一步】

早いもので、今年も残すところあと1か月となりました。今年は暖冬という予報ではありますが、少しずつ朝夕の冷え込みが増し、本格的な冬が近づいてきました。冬になると、インフルエンザやウィルス性胃腸炎などの感染症も流行してきますので、手洗い・うがいを習慣づけて(0, 1歳児さんはうがいはまだできないので、こまめに水分を摂ることで予防)、元気に冬を過ごしていきたいと思えます。ご家庭でも十分な睡眠と食事を心がけて、生活リズムが崩れないように気をつけていただければと思います。

最近、1歳児さんと一緒に遊んでいると、どこからともなく、「いやよ〜」「だめよ〜」という言葉がよく聞こえてきます。友だちの存在に気づき、一緒にいるのが楽しくなる時期ではありますが、その反面、友だちの持っている玩具が欲しくて取り合いになる等、けんかになってしまうこともしばしばあります。つい「いやよ」「だめよ」の否定的な言葉に反応して「いやよじゃなくて…」と言ってしまいがちですが、この短い言葉の中に「今は私が遊んでいるから貸してあげるのはいやよ」という、言葉で十分に伝えられない思いが詰まっています。その都度、「〇〇ちゃんの持っているおもちゃが欲しかったのよね。」「今遊んでいるから、まだ貸してあげられなかったんよね」とお互いの思いをくみながら、言葉を添えて仲立ちをしています。少し前なら、他の玩具やあそびに誘うことで気持ちが切り替わっていましたが、この時期の自己主張は頑固でなかなか揺るぎません。でも、しばらく傍で一緒に様子を見たり待ったりしていると、思い出したように「どうぞ

と貸してくれたり、何もなかったようにいつの間にか傍で一緒に遊んでいます。これは相手のことが嫌いだとか一緒に遊びたくないのではなく、遊びたいけど上手く関われないだけなのです。この自己主張は、自我の芽生えのはじまりで、赤ちゃんの時は周りの大人にお世話をしてもらい依存しており受け身の状態ですが、1歳を過ぎて歩けるようになると、行動範囲が広がっているいろいろな人と関わっていくようになります。そして、自分の存在に気づくことで、自分の思いがではじめ、少しずつ周りの事に興味を示したり、「自分でやりたい」という成長がみられるのです。この時期にしっかり自分の思いを表現して自己主張していないと、3歳以降のいろいろなことに興味関心を持って、仲間と一緒に意欲的に取り組もうとする「学びに向かう力の基礎」につなげていきません。友だちと一緒に遊ぶよろこびを味わったり、やりとりしながら気持ちを通わせたりする楽しい経験の中で、時に自己主張をしてぶつかり合ったりけんかをするなどのマイナスの経験を通して、人との関わり方を学び、社会性を身につけ、人格が形成されていくのです。まだまだ小さな社会の中ですが、これからの人生を自分で主体的に生き抜く、自立への大きな一歩を踏み出しているのです。上手くいかなくて当たり前、失敗しても大丈夫。私たちは、いつも子ども一人ひとりの思いを受けとめ、子どもたちが安心して自分の思いを表現することができる存在でありたいと思えます。

これから師走を迎え、年の瀬という事もあり慌ただしくなってきましたが、ご家族お揃いで楽しい新年をお迎えください。

園長 河野純子

【きっずノートの運用を始めます】

1月より、保護者の方との連絡ツールとして、連絡アプリ『きっずノート』を開始します。

緊急連絡網と行事予定、日頃の保育の様子などを配信していきます。つきましては、12月より登録をお願いしたいと思えます。詳細は、後日プリントでお知らせいたします。

成道会

インドのシッダルタ王子(後のお釈迦様)が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。この日は、成道会の式を行い、「良い子になりますように」とみ仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心をもち、『何事にもやる気のある子ども』に育ってくれることを念じています。

大晦日

12月31日



「みそか」とは30日のことで、一年の最後の日を「おおみそか」と言います。大晦日の夜、除夜の鐘が108回鳴ります。これは、人間の煩惱が108つあるという仏教の教えからきたもので、それを取り去って新年を迎えるわけです。107回を年内に、最後の一つを新年につきます。



子育て応援メッセージ

瞳を見つめあい
笑いを重ねるとき
心と心が
やさしくひとつになります



喜びから生まれる笑いは、幸せを呼ぶおまじない。「あなたのすべてが大切」と思う瞬間、親にも子にも幸せが訪れます。

子どもの育ちの歩みに寄り添い、ていねいにかかわっていくこと、そして、笑顔がいちばん。いつも一緒に笑っていれば、もっといちばん。

(社)全国私立保育園連盟
子育てメッセージより

もちつき

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がひびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。

もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満身に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

当園では、20日にきりん組さんが、第二みみよう保育園に行って、4, 5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんにいろいろ教えていただきながら、一緒にお餅を丸めたり、つくところを見たりして、楽しく過ごします。